

様式第 2 号

視察研修先	長野県小諸市議会	氏名	野口康一郎
視察研修項目	有害鳥獣商品化施設整備事業について		
<p><b>【視察先概要】</b>          小諸市は長野県の東部に位置し、浅間山の南麓に美しい農村風景が広がる自然豊かな高原の街。東京から約 1 時間半と近く高地トレーニングに最適な場所としてアスリートの方からも好評を得ている場所。最近では都心からもアクセスが良いため、移住して来られる方も増えているとのこと。観光地としてはお城が城下町より低い位置にある「穴城」といわれる小諸城址懐古園があり、人口約 4 万人の坂の多い街。</p> <p><b>【視察内容】</b>          有害鳥獣(シカ)を駆除し、駆除したシカの有効活用を図るため、ペットフードとして加工販売して野生鳥獣対策をしている。近隣市町村と連携し有害鳥獣の被害低減及び解体加工施設での雇用を創出している。</p> <p><b>【感想・所見】</b>          シカ・イノシシ・ハクビシン等農作物を食い荒らす有害鳥獣の被害が多くあったが、人口減少と共に猟友会の会員の高齢化と会員の減少で狩猟数が減っていた。住んでいる地域は違うが、抱えている悩みはどこも一緒だと感じた。これまでのやり方では持続可能な鳥獣被害対策が出来ないと思い、新たに小諸市野生鳥獣対策実施隊を編成したとのこと。実施隊員として捕獲する事で起こるメリットを説明し猟友会の方々を説得し、更には新たな人材を確保したことは素晴らしい事だと感じた。これによりこれまでの捕獲数よりも約 4 倍もの捕獲数を確保した事には驚いた。捕獲数の増加に伴い作物の被害も減った事は本当に凄い事だと思う。          しかし、成功に伴う問題として鳥獣対策の費用が増加してしまったそうだ。捕獲した個体の処分には経費が掛かってしまうため、シカの有効活用と経費の削減のためにペットフード事業を開始した。商品化しても売れなければ意味が無いので売れる仕組み作りを考え、付加価値をつけるために麻布大学や獣医師との連携を図り販売する事で、安定的な売上げになっているとの事。需要が多く人気なのにも驚いた。          事前資料で見させていただいた時にはそんなにシカが取れるのかと疑問を感じていたが、年間の捕獲数、他市町村から運ばれてくる頭数を聞いて驚いた。聞けば温暖化の影響でシカの生息域が北上しているとの事。北上しているという事は山形県でもいずれ同じ事が起こるかもしれない。この度学んだ事を参考に寒河江市では何が出来るかを考えなければならぬと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	群馬県高崎市議会	氏名	野口康一郎
視察研修項目	農業者支援のための各種補助制度について		
<p><b>【視察先概要】</b>                  東京から約100kmに位置し、中山道の街道筋として古くから関東と甲信越を結ぶ交通の要衝として発展してきた場所。平成18年に5町村と、平成21年に1町と合併し、人口約37万人の都市。「高崎だるま」と「パスタの街」としても有名。標高60mから1700mの地形で、農地も平野部から標高800mの山間部までであるため、地域によって特色のある作物が収穫できる。</p> <p><b>【視察内容】</b>                  地産多消(地産地消+地産他消)を推奨しており、農業者を支援するための助成制度が充実している。                  ・6次産業化等推進事業補助金 ・ブランド商品開発事業補助金 等</p> <p><b>【感想・所見】</b>                  説明をお伺いし、農業に関する施策の多さに驚いた。説明者の言葉からも「農業を何とか守ろう、新規農業者を増やそう」という気持ちが感じとれた。                  特に「農業者新規創造活動支援事業」と「かがやけ新規就農者応援給付金」は素晴らしい施策だと感じた。国の補助金もあるが、市独自でも更なる補助金を出して新規就農者を応援している。補助金を使ってもらう為の工夫もされていて、本来補助金は使うために様々な書類や手続きがあるが、手間を減らすようにして補助金の利用者を増やしているのは素晴らしいと感じた。是非寒河江でも取り入れていただきたいところである。                  「農業者新規創造活動支援事業」は6次産業化に取り組む事業者を支援し、全国的にも高い補助率で農家の方のモチベーションアップにも繋がるのではないかと感じた。市長の肝いりの政策だという事と失敗してもいいからチャレンジしてみようとする姿勢はマネすべき事だと思った。                  安心で安定した生産活動に向け、農業者に寄り添った施策の推進も数多くある。大雪や雹といった自然災害が多発している現在、被害に遭われた方にいち早く支援するため見舞金として給付金を支給している。農業保険もあるが、掛け金が高額で掛けない方もいるそうなので、小額だとしても農家の方からしてみると助かるのではないかと感じた。                  事業を行うにも予算の都合もあるのでどこまで参考出来るかわからないが、農家の方の意見を聞いて寒河江でも出来る事からやるべきだと感じた。</p>			

様式第2号

視察研修先	群馬県館林市議会	氏名	野口康一郎
視察研修項目	つつじが岡公園管理事業		
<p><b>【視察先概要】</b></p> <p>館林市は群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央に位置している。県都前橋市からは最も離れているが、東京浅草まで約70kmと最も近く、東京との交流は密接であり、鉄道や道路などの地理的条件には恵まれている。人口約7万人の都市。</p> <p><b>【視察内容】</b></p> <p>つつじが岡公園内には100品種余・約1万株のつつじが植栽され、また、その古木郡は国の文化財「名勝」に指定されている。つつじまつり等を通し、地域経済の活性化及び公園の四季型化を充実に進めている。</p> <p><b>【感想・所見】</b></p> <p>つつじが岡公園は400年以上前から「つつじが崎」と呼ばれ、古くからつつじが自生していた歴史ある公園で、推定樹齢800年のヤマツツジを初めとする古木郡が有名。つつじまつりの期間中のみ有料区域を設定して有料公園になる。つつじの維持管理の為に必要な事で、良い取り組みだと感じた。</p> <p>とにかく公園の広さに驚いた。市民の皆様からすると産まれた時からある公園で、市としても「つつじを愛し保護する条例」を制定する等、館林市民が誇れる場所として共通認識となっている事は素晴らしい事だと感じた。</p> <p>つつじの咲く時期は4月中旬から5月中旬までの約1ヶ月ほどだが、近年の温暖化の影響で開花の時期が早まり、期間も短くなっているとの事。つつじの時期が終わった後も観光に訪れてもらえる様に工夫しているが、つつじの時期に比べると集客が難しいとの事。また、新年度がスタートする4月から準備となるため準備期間が無いのも課題との事。近年は観光の形が変わり、1箇所だけの観光には限界があるため近隣の名所との連携も図っているとの事。同じように寒河江でも自分たちの所だけでなく、近隣の市町村との連携は不可欠だと思う。また、東京や近隣からの観光が多いようだが、日中公園を散策して夕方には帰ってしまうため観光地としての経済効果はあまりないように感じた。滞在時間をどうすれば延せるのか、館林に泊まっていただく術を考えなければならぬと感じたし、寒河江も同じ課題に直面していると思うので、寒河江市にどうすれば泊まってもらえるか、通り過ぎるだけの場所にならないようにするにはどうすべきかを考えなければならぬ。</p>			